

II 活動報告

◎work◎life◎
balance innovation

① | 意識改革

1-1 男女共同参画図書コーナーの設置

図書コーナーの開所式

平成27年2月13日（金）、小白川図書館1階閲覧室入り口の特設コーナーに『男女共同参画図書コーナー』を開設した。当日は、13時から小山庄長の挨拶後に、小山庄長、阿部男女共同参画推進室長（総務・広報担当理事）、萩原理事（財務・施設担当）、北川小白川キャンパス長、小川小白川図書館長によるテープカットが行われた。



図書コーナーの設置経緯

阿部室長から、「イタリアに出張した際にボローニャで女性図書館を視察し非常に参考になった。本学でもこれに類することを検討しよう」との提案があった。

男女共同参画推進室では、男女共同参画やジェンダーに関する図書及び報告書等を保有し、推進室のホームページで公開し貸出を行っているが、利用希望者が皆無に近い状況である。

また、推進室の図書等は、毎年6月中旬から7月中旬に掛けて1ヶ月間男女共同参画フェスタを開催し、国立女性教育会館からの借用図書と合わせて小白川図書館に展示している。

この1ヶ月間を除けば、推進室が保有する貴重な文献は活用されず、眠ってしまっていることの現状を早期に打開する必要があると、小白川図書館と協議し、図書館1階に男女共同参画関係の図書の特設コーナーを設置することにした。

配架図書

配架に際しては、推進室保有の図書等のみならず、小白川図書館が所蔵する男女共同参画やジェンダーに関する図書も合わせて展示し、学生、教職員及び図書館を利用する市民の方に、より多くの情報を提供することにした。

また、国立女性教育会館から200冊を借用し、合わせて展示した。

配架図書は、憲法とジェンダー、教育社会とジェンダー、子育て支援制度と現場・よりよい支援への社会学的考察、コミュニティ・グローバル化と社会理論の変容、女性たちの大学院、大学院生・ポストドクターのための就職活動マニュアル、男女共同参画社会データ集など、多岐にわたり展示した。



国立女性教育会館からは、『家族とジェンダーの社会学』、『ワーク・ライフ・バランスと家族形成：少子社会を変える働き方』、『「変わってしまった女」と「変わりがたくない男」：男女共同参画ノート』、『セクハラ・パワハラ：常識・非常識』、などの図書を展示した。

さらに、日本女性学会から、学会誌『女性学』2～21号を寄贈いただいた。

図書の利用方法

図書を利用する場合には、他の図書と同様の手続きとなる。閲覧室で読んだときには、元の書架に戻す。館外に持ち出して読むときには、図書館のカウンターで所定の手続きを行う。貸出期間は、3週間（女性教育会館は館内閲覧）である。

1-2 男女共同参画国際シンポジウム

【目的】

グローバル化時代の男女共同参画について、今日の状況や課題を把握し、今後の方向や方策を明らかにする。具体的には、企業におけるダイバーシティ推進の取組や近年、女性研究者割合を高めてきている韓国のWISSET（女性科学技術者支援）の取組から、今日の状況や課題を広く把握する。また、山形大学の女性研究者や海外に目を向け卒業研究に取り組んでいる学生からの発表を受けて今後の支援の方向について意見交換を行う。

多様な立場からの情報や意見をもとに女性研究者支援を一層進めると共に、今後の海外の女性研究者との交流や学生の国際的な交流を進める機会とする。

26年度は、山形大学国際化推進事業支援プログラムに採択され実施した。

日時：平成27年2月19日（木）13：30～16：30

場所：山形大学小白川キャンパス基盤教育棟3号館312教室

リモート配信：農学部3号館401講義室

共催：大学コンソーシアムやまがた 後援：山形県・山形市

参加者：62名（女性35人、男性27人）

【内容】

基調講演「男女が共に輝くために」

高松和子氏（公益財団法人21世紀職業財団理事・事務局長）

特別講演「韓国における理工学分野の女性研究者増加策と支援」

シン マルシク氏（韓国全南大学教授）（通訳：山形大学地域教育文化学部4年生 朴智恩）

山形大学報告「山形大学の男女共同参画施策の成果と課題—平成26年度アンケート調査から—」

木村松子（山形大学男女共同参画推進室准教授）

パネルディスカッション「グローバル化時代の大学における男女共同参画」

コーディネーター 阿部宏慈（山形大学男女共同参画推進室長）

パネリスト シン・マルシク（韓国全南大学教授）

黒谷玲子（山形大学理工学研究科准教授）

神田あずさ（山形大学地域教育文化学部4年生）



基調講演高松和子氏



パネルディスカッションの様子

1-3 学長・学部長と教職員等とのワークライフバランス(WLB)懇談会

学部名	日時	場所	対象者	テーマ	参加数
人文学部	1月9日(金) 13:00~13:50	第2会議室	男女教職員	子育てと働き方などについて	22人
	<p>会議時間の持ち方や、残業についての意見交換が行われた。また、育児環境の支援として24時間ベビーシッターの整備等を県・市に働きかけてはどうかとの意見があった。</p> 				
地域教育文化学部	8月26日(火) 11:30~12:50	基盤教育1号館 会議室	男女教職員	ワークライフバランスについて	18人
	<p>オープンキャンパス時に実施した「男女共同参画パネル展」のアンケート結果報告が行われた。また、産休時の代替教員の手配や介護休暇等について質疑応答が行われた。その後女性教員比率向上についての懇談も行われた。</p>				
理学部	11月10日(月) 16:30~17:30	13番教室	男女教職員	・WLBについて ・女性教員が増えるためには	34人
	<p>「女性教職員が仕事を続けていくための環境—現状とこれから—」をテーマに小倉教授よりショートレクチャーを受けた後に、労働時間の管理や意識についての話題が出され、意見交換を行なった。</p>				
医学部	1月16日(金) 16:00~17:00	第1会議室	男女教職員	働きやすい職場環境を実現するためのWLBについて	22人
	<p>病児保育の必要性についての意見交換が行われた。保育所と幼稚園への二重保育について、また男性も休みを取りやすい職場環境の整備についての意見が出された。</p>				
工学部	7月17日(木) 13:30~14:30	100周年記念会館 セミナールーム	男女教職員	ワークライフバランスについて	14人
	<p>男性の育児環境の向上、女性教員を増やすことと裾野拡大は同時に進めていく必要があり、職場を男性も女性も安心して生活していける健康な場所にしたい等の意見が出された。</p>				
農学部	6月30日(月) 14:00~14:50	会議室	男女教職員	働きやすい環境を実現させるためのWLB	15人
	<p>産休等による職務復帰後の仕事に対する不安や、休みを取りにくい状況についての声が出された。女性教員比率の向上に係る課題として、地理的な問題による応募者減や、女子学生の進路選択時の大学院進学への不安が出された。</p>				
基盤教育院	7月17日(木) 11:00~12:00	基盤教育1号館 会議室	男女教職員	ワークライフバランスについて	17人
	<p>産休育休時の代替教員について、介護のこれからの支援について、休みを取りやすい職場環境について意見交換が行われた。</p>				

1-4 男女共同参画フェスタ

目的 「男女共同参画週間」(内閣府6月23日～29日)に合わせ、学生、教職員、一般の方々を対象に、山形大学男女共同参画フェスタを開催し、男女共同参画意識の向上を図る。

(1) パネル展

期間：6月19日(木)～7月2日(水)

場所：山形大学インフォメーションセンター
(理学部1号館東側)

内容：「山形ワークライフバランス・イノベーション」
「男女共同参画早わかり」
「すてきな“ふたり”でいるために」



(2) ヌエック図書展

期間：6月17日(火)～7月17日(木)

場所：小白川図書館1階閲覧室入り口

図書の内容：ヌエック(国立女性教育会館図書館)所蔵の100冊と、小白川キャンパス図書館所蔵の100冊の関連書籍を専用コーナーに特別展示。

貸出方法：ヌエック所蔵図書の貸し出しは貸出簿に手書きにて記入

貸出期間：1週間(更新なし)

貸出冊数：1人5冊まで

貸出対象：学内の学生及び教職員

(3) 男女共同参画セミナー

日時：7月11日(金)16:00～17:00

場所：小白川キャンパス 事務局棟第2会議室
医、工、農はテレビ会議室

テーマ：「仕事と介護の両立のために
～知っておきたいポイント」

講師：丹野克子氏

山形県立保健医療大学理学療法科講師
理学療法士、社会福祉士、
主任介護支援専門員

対象：教職員

参加人数：20人(女性9人、男性11人)

山形大学
男女共同参画フェスタ
6月17日～7月17日

パネル展 6/19(木)～7/2(水)
(山形大学インフォメーションセンター・理学部1号館東側)
「山形大学ワークライフバランス実現への取り組み」
「男女共同参画早わかり」
「すてきな“ふたり”でいるために」

ヌエック図書展 6/17(火)～7/17(木)
(山形大学小白川図書館)
ヌエック(国立女性教育会館)所蔵の「ジェンダー」「異性関係」「コミュニケーション」等をテーマとした約100冊の書籍と、小白川キャンパス図書館所蔵の関連図書100冊を専用コーナーに特別展示します。

男女共同参画セミナー
「仕事と介護の両立のために
～知っておきたいポイント」
講師 丹野克子氏(山形県立保健医療大学理学療法学科 講師)
7月11日(金)16:00～17:00
個別相談 17:00～18:00
会場：小白川キャンパス 事務局棟第2会議室(4階)
医、工、農はテレビ会議室
医学部：第2会議室、工学部：講義棟3階会議室、
農学部：TV会議室
対象：教職員 30名程度
*要申込み(先着順にのります)
お問い合わせ
山形大学男女共同参画推進室
電話：023-628-4937/4938/4939
E-mail：y-danjo@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

参加無料
たくさんの方のご来場をお待ちしています。

1-5 ランチミーティング

仕事と生活のバランス（ワークライフバランス）に関する情報交換や、学部・分野・職域を超えたネットワーク作りの場となっている。26年度は2回開催された。

キャンパス	日時	場所	対象者	テーマ	参加数
小白川	6月19日（木） 12：15～13：00	人文学部3号館 第3会議室	男女教職員	新任者と語るワークライフバランス	19人
	<p>新採用、県外からの異動、部署の異動があった教職員が集まり、2名から話題提供が行われた。その後、現在の心境ややりたいこと、山形での生活のポイントやアドバイスなどが語られた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夫婦とも他県出身者で親も働いているため、子どもの体調が悪くてもすぐに親に頼ることはできないことを覚悟し、日頃からどうするか話し合うようにしている。 ・今までワークとライフのバランスが取れていなかったが、最近ようやくバランスができた。 ・子どもがいる、いないではなく、それぞれが生活を楽しむことが大切だ。 				
小白川	12月25日（木） 12：15～13：00	厚生会館 アンジェ	男女教職員	小山学長・阿部室長を交えて	13人
	<p>小山学長、阿部室長と教職員が集まり、WLBについて語り合った。今年2人目のお子さんが誕生した方と2人のお子さんをお持ちの方から話題提供があった。普段、職場では見えないお互いのライフを知ることで共感や親しみが生まれると共に、相談できる人を得るチャンスにもなった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小白川キャンパス保育所の一時保育を利用して妻の入院を乗り越えたものの、山形に知り合いの少ない妻のケアも課題である。 ・部活の迎えを忘れた失敗から親同士のつながりの大切さを知った。 ・仕事の時間を自分で決める。 				



② | 研究支援

男女共同参画セミナー

(1) 「今、世界の女性は」～国連女性の地位委員会から～

NGOの代表として10年以上に渡り「国連女性の地位委員会（CSW）」に参加し、日本政府国連代表部と共に活動をされている平松昌子氏を迎え、男女共同参画セミナーを開催した。

国連女性の地位委員会の様子や各国の女性の状況を伺い、後半は、特別ゲストで日本のリーダー育成に携わる厚子・東光・フィッシュ氏も加わり、参加者とのフリートークが行われ、学生達に「世界を舞台に挑戦してほしい。」との、熱いメッセージが述べられた。

講師：平松昌子氏（特定非営利活動法人日本BPW連合会理事）

日時：5月16日（金）16：30～17：40

場所：小白川キャンパス基盤教育棟1号館112教室

対象：学生、教職員、一般

共催：山形大学教育・学生支援部国際交流課

参加人数：134名（女性72名、男性62名）

【参加者の感想】

- ・日本と外国では社会への関心度に大きな差があるのだなと思った。
- ・文化や考え方の違いの大きさをとても感じた。私は今まであまり海外に出ていこうという考えは持っていなかったが、今回のセミナーを聞いて外の世界というか異文化を体験してみたいと思った。
- ・国際的な視点で女性の地位の見直しが進んでいることが分かった。
- ・世界で活躍する女性の話を聞いたことはあまり無かったので良い刺激になった。日本は、先進国でも全世界でも、男女共同参画社会の実現は遅れている。これからの時代、様々なアクションをしてより良い社会づくりを国民一人一人がしていく必要を感じた。



フリーディスカッション



学生との質疑応答

(2) 「仕事と介護の両立のために～知っておきたいポイント」

多くの人が迎える親の介護。できるだけ幸せな老いを過ごしてほしいと願いつつも、責任ある仕事との両立は困難です。山形県立保健医療大学の丹野克子氏を講師に迎え、両立のポイントを伺いました。介護状態を受け入れることは難しく、どんな人も否定から始まり、拒絶に進むことがあるが、受容できるようになると、介護する側もされる側も安定してくるということでした。そのためには、介護者自身が閉じこもらないこと、支援とつながること、人・物・制度の介護環境を整える事など、具体的な紹介がありました。

日時：7月11日（金）16：00～17：00

場所：小白川キャンパス 事務局棟第2会議室

医、工、農はテレビ会議室

講師：丹野克子氏

山形県立保健医療大学理学療法科講師

理学療法士、社会福祉士、

主任介護支援専門員

対象：教職員

参加人数：20人（女性9人、男性11人）

【参加者からの質問】

事前に参加者より質問を募り、当日は一つ一つ丁寧な説明があった。

- ・誤嚥性肺炎の予防と食事内容について
- ・介護のために仕事に割ける時間が少ない場合の対応について。
- ・足が不自由であまり動けないが、アルツハイマー病を進行させない運動療法はないか。
- ・親の介護が必要になった場合の心構え
- ・認知症で現在、グループホームに入居しているが、会いに行く度に、帰りたいたって泣いたり怒ったり興奮してしまい、いつも困っている。どうしたらいいか。

【参加者の感想】

- ・まだ介護についての実感はないが、就業規則等を調べておきたい。
- ・周りの環境や信念などの思い込みにとらわれ過ぎずに、「良い加減」という言葉を、胸に留めておきたい。
- ・孤立しないのが大切。理解者、支援者は必ずいるということを忘れないようにしたい。



平成26年度山形大学男女共同参画セミナー

**仕事と介護の両立のために
知っておきたいポイント**

全ての人が迎える親の介護。できるだけ幸せな老いを過ごしてほしいと願いつつも、責任ある仕事との両立は困難です。
利用できる介護支援の情報や経験に基づく事例から両立のポイントを具体的に紹介いたします。
また、個別相談にも応じますので、事前に下記担当にメールでお申し込みください。

日時 7月11日（金）講演 16:00～17:00
個別相談 17:00～18:00（4名程度）

場所 小白川キャンパス事務局棟 第2会議室（4階）
他キャンパスはTV会議室
医：第2会議室、工：講義棟3階会議室、農：TV会議室

講師 丹野 克子 氏（山形県立保健医療大学理学療法学科講師、理学療法士、社会福祉士、主任介護支援専門員）

対象 教職員

主催 山形大学男女共同参画推進室、労務課

担当： 山形大学男女共同参画推進室
電話 025-628-4897
FAX 025-628-6014
メール ydanab@im.kj.sanagaku.ac.jp

③ | 研究と育児等の両立支援

3-1 小白川キャンパス保育所のびのびの開所

(1) 保育所の開所

小白川キャンパス保育所のびのびは、山形大学男女共同参画基本計画に基づき、教育・研究及び就労と家庭生活との両立のための環境作りの支援を進めること。併せて、保育や幼児に関する教育・研究を支援する趣旨で平成26年4月1日に認可外の事業所内保育所として開所した。



(2) 保育所の設置経緯

保育所の設置に当たっては、2回にわたるアンケート調査を経て、教職員からの要望に応えるべく、ワーキンググループを設置し、アンケートの分析、設置場所、設置経費、運営費等、多方面から検討した。これらの詳細については、山形ワークライフバランス・イノベーション第1部平成21年～23年度報告書及び同平成24年度報告書に記載した。

(3) 保育の運営方針

保育所では、乳幼児の健やかな成長を第一に考えた保育、安全な保育及び幼児の発達に即した優れた保育を基本方針に、家庭や地域や自然とのかかわりの中で、豊かな人間性が育まれるよう日々の保育を実施している。



小白川キャンパス防災訓練に参加（10月27日）

(4) 保育所の運営形態

保育所は、男女共同参画推進室長である阿部理事が保育所長となり、乳幼児の入退所や一時保育の登録及び経営に関することを男女共同参画推進室が行い、乳幼児の保育に関する具体的な運営を特定非営利活動法人やまがた育児サークルランドに委託している。

(5) 保育所の面積

保育所は、非常勤講師宿泊施設「瑞樹荘」の一部を改修し、乳児室、保育室、調乳室、トイレ、調理室、事務室等の建物195.19㎡と中庭34.39㎡、園庭370.40㎡の合計599.98㎡である。

詳細は、次のとおりで、単位は㎡である。

玄関・ホール事務室	乳児室1	乳児室2	保育室	調理室	調乳室	沐浴室・トイレ	トイレ1	トイレ2	園庭	中庭	合計
63.79	18.13	17.62	56.19	12.28	4.32	9.72	10.80	2.34	370.40	34.39	599.98

(6) 保育所への入所資格及び入所定員

本学に在籍する教職員、学生が養育する産後休暇明けから小学校就学始期に達するまでの乳幼児が入所資格である。入所定員に余裕があるときには、地域の乳幼児も受入れている。

定員は、30名とし、ただし、0・1歳児については、認可外施設基準の乳児室の面積の関係から一時保育も含め10名としてスタートした。

このような状況で乳幼児の受入れを開始したが、0・1歳児の入所申込みが圧倒的に多く、全体の欠員はあるものの、0・1歳児の定員超過に陥るおそれが生じてきた。

そのため、12月1日から保育所内の部屋の用途変更を行い、定員を0・1歳児15名、2歳児以上15名の30名とした。

また、教職員、学生からの要望に応えられるよう、地域からの受入れについても上限を定めることとし、原則としてそれぞれの定員の2割の範囲内に変更した。



クリスマスコンサート(12月5日)

(7) 保育所の開所日、開所時間及び保育料等

開所日は、大学入試センター試験及び個別学力検査の日を除く土曜、日曜、祝日、年末年始の休日及び一斉休業以外の日とした。

開所時間及び保育料は次のとおりである。

区 分	開 所 時 間	保 育 料
基 本 保 育	7時30分から18時30分まで	3歳未満45,000円/月 3歳以上30,000円/月
延 長 保 育	18時30分から20時30分まで	300円/時間
一 時 保 育	7時30分から20時30分までの間	500円/2時間
大学入試センター試験及び個別 学力検査等の土曜、日曜の保育	7時30分から20時30分まで	500円/2時間
その他本学が保育を 必要と認める時間		300円/時間

保育料の他に、給食費及びおやつ代として、実費相当額の負担がある。給食は、山形給食センターからお弁当を取り、おやつは、手作りのお菓子等である。他に、健康診断、歯科検診等は、実費である。

(8) 入所の手続き

保育所に入所する場合には、入所申込書を入所希望日の2ヶ月前の末日までに男女共同参画推進室に提出する。入所申込書が受理されると、入所希望日の3週間前に保育所関係職員が保護者と子どもさんとの面談を行い、子どもさんの様子を聞くとともに、保育内容や準備するものなどについて説明し、この手続きを経て入所を許可する。

(9) 慣らし保育（除く一時保育）

入所当初は、慣らし保育（早お帰り）を行う。最初の2～3日間は2時間程度の保育を行い、徐々に時間を延ばし、個人差もあるが、1週間から10日間程度でフルタイムの入所となる。

(10) 乳幼児の受入状況

保育所の入所者は、平成27年3月1日現在13名で、詳細は次のとおりである。

地域の子どもも入所している。

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合 計
教職員	1	4	1	0	1	0	7
学 生	0	0	0	0	0	0	0
地 域	1	3	1	0	1	0	6
合 計	2	7	2	0	2	0	13

(11) 一時保育の受入れ

保育所設置前の平成26年3月までは、教職員や学生の子どもを一時預かりしており、保育所設置後も教職員からの一時預かりのニーズが高いことから、緊急一時的に保育が必要となった場合で、

入所定員に余裕があるときには一時保育として乳幼児を受け入れる。

一時保育に際しては、登録制度を導入しており、一時保育を希望している場合には、その日の3週間前までに一時保育申込書を提出し、次の週に保育所関係職員が保護者と子どもさんとの面談を行っている。現在、19名の乳幼児の登録があり、毎日1から2名の乳幼児が通所している。

(12) 日々の乳幼児の様子

子ども達は、室内でお友だちと積み木遊びをしたり、絵本を見たり、みんなで童謡を歌ったり、お遊戯をしたりしている。外遊びでは、園庭で砂遊びなどを行っているが、冬季は雪遊びが大好きです。

天気の良い日には、キャンパスをフィールドに散歩、外遊び、学生さんとの触れ合い、松ぼっくり、



のびのびクリスマス (12月17日)

どんぐり、枯れ枝、落ち葉等を用いての様々な遊びをするなど、自然に親しみながらのびのびと過ごしている。

保育所の行事としては、親子夏祭り、園庭での運動会、親子芋煮会、ハロウィンでの事務室や施設回り、小白川キャンパス防災訓練への参加、親子ミニコンサート、クリスマス会、豆まき、だんご木作り、読み聞かせ会などを実施し、様々な機会に触れている。

(13) 教育研究への対応

保育所が大学の施設である関係から、保育所利用規程の目的に保育研究等に資する環境を整えることも含まれている。そのため、教育研究活動に関する取扱い要領を制定し、日常保育の中の可能な範囲で教育研究に対応している。

平成26年度は、12月に3日間延べ13名、1月に1日間4名、2月に3日間延べ14名の受入れを行った。

なお、学生の立入りに当たっては、単なる見学で乳幼児との接触がない場合を除き、感染防止策を講じていることを条件としている。

3-2 託児サポーター制度(学童一時預かり)

仕事と育児の両立を可能にする環境整備の1つとして、平成21年12月1日に開始した制度である。夕方、仕事が長引く場合や学校等が休業で子どもを預けるところがない場合に、学内の一時保育施設にて、託児サポーター研修を修了した学生が保育士の指導のもとで保育を行う。

平成26年4月に小白川キャンパス保育所が開所し、6か月～就学前の子どもの一時預かりは保育所で行うことができるため、26年度より学童の一時預かりに変更した。対象者が少なくなったことで、利用者も減少した。

	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度
登録している教職員数	8人	15人	21人	21人	24人	13人
登録している子ども数	13人	23人	31人	29人	37人	16人
年間延べ利用回数	15回	71回	45回	49回	60回	7回
年間延べ利用時間	28時間	227.5時間	153.5時間	151時間	184.5時間	18.5時間
託児サポーター数	29人	45人	50人	40人	29人	16人

3-3 研究継続支援員制度・学会参加時の保育支援制度

(1) 研究継続支援員制度

出産、育児、介護等により十分な研究時間を確保することが困難な研究者に「研究継続支援員」を配置し、継続して研究を行うことができるような環境を提供する。

学内から、制度の継続と幅広い層の教員を対象としてほしいという要望があり、26年度からは、男性研究者も対象とすることとした。() 書きは、男性数を示す。

申請理由	前期	後期	合計
妊娠・出産・育児	7人(1)	4人(1)	11人(2)
介護	3人	3人	6人
合計	10人(1)	7人(1)	17人(2)
支援員配置時間	1,470時間	1,549時間	3,019時間

(2) 学会参加時の保育支援制度

平成24年4月より女性研究者の研究と育児の両立を支援するため、「学会出張時の保育支援制度」を実施したが、制限が多く利用しにくいせいか利用者は少なかった。そこで学会参加時として利用範囲を広げ、また、要望があった男性研究者については、26年度から対象とすることとした。

3-4 巡回相談員制度

(1) 概要

ワーク・ライフ・バランスの推進に向けて、相談を希望する男女教職員、大学院学生（博士前期課程を除く）及びポストドクターを対象とした巡回相談を実施した。

(2) 相談者数

平成26年度男女別相談者数	総数：15人	女性：10人	男性：5人	
教員・職員別相談者数	教員：15人	職員：0人		
キャンパス別相談者数	小白川：4人	飯田：8人	米沢：1人	鶴岡：2人

(3) 実施方法

- ①全学にメールで「巡回相談」の案内を配信する。
- ②新採の教職員及びこれまで巡回相談に伺ったことのある教職員、さらに学長・学部長と教職員等とのワーク・ライフ・バランス懇談会に出席された教職員に対し学内便で案内を送付する。
- ③返信があった教職員と連絡を取り、日時と場所を設定する。
- ④1人1時間程度の聞き取り相談を実施する。
- ⑤相談の中での「疑問」や「要望」を男女共同参画推進室で協議し、相談者へ回答する。
- ⑥巡回相談での内容を報告書にまとめ、今後の男女共同参画施策に活かす。

(4) 聞き取り内容 (●現状 ○良かった点・工夫している点 ■要望)

①子育て・介護について

- 教員は代替要員を確保するのが難しい。また業績が落ちるので長期の育休は取れない。
- 育児や介護のための休暇制度はあるが実際には使えない。休暇を取りにくい雰囲気がある。
- 妊娠出産したら短期で戻らなければポストが無くなる。男性も留学すると戻れなくなる。

- 出産すると「第一線から抜けた」と思われ、短時間勤務になると「戦力外」と言われ辞めてしまう。
 - 独身の教員や子供のいない教員が多いので、男性が子育てに関わることへの理解が得られない。
 - 子育てが一段落した教員からの支援や協力が得られない。
 - 妻が専業主婦だと、「子育てについては考慮しなくともよい」と思われている。また男性自身にも「言えない」というところがある。
 - 教員間で「介護」について話しにくい雰囲気がある。
 - 部局間のつながりがないので、子育て・介護等に関する情報が広がらない。
 - 遠距離介護なので、緊急の連絡が入った時の対応に苦慮している。
 - 育休が取れたのは良かった。子育てに関わられただけでなく、自分を見つめ直せた。
 - 子供を産んで社会の動きに目が行くようになった。知ること意識が変わった。
 - 子育てを主体的に行っていることが、仕事や研究または自分の人生に結びついている。
 - 身近にモデルがいたから、出産後仕事に復帰できた。
 - 周囲の理解があるので、介護休暇がスムーズに取れている。
 - 医局が協力してくれるので、5時に帰ることができる。
 - 出産後復帰してから「当直無し」にしてもらっている。後輩のためになるので続けている。
 - 産休・育休に入る前に本人から「いつ頃から復帰したいのか」を聞き取っておき、育休終了前に「戻れるかどうか」を再度確認している。意思確認することでお互いの不安が解消されている。
 - 産休・育休で代替の先生が入っても、1番目の先生がアドバイスできるようになっている。知識のある人が短時間でもアドバイザーとしていることで安定する。
 - 病児保育を早く作ってほしい。また、ベビーシッター制度も山大で作ってほしい。
 - 育児・介護期間は、業績評価を免除するシステムにしてほしい。育児・介護休暇が取りやすくなる。
 - 乳幼児を持つ教職員の駐車スペースに配慮が欲しい。
 - 介護に関する情報が少ない。また教職員間で情報交換する機会を作ってほしい。
- ②その他
- 指示が通らない学生への指導に苦慮している。
 - 5時以降までかかる会議が多い。会議の開催時間は多数決で決まるので少数意見は無視される。
 - 教員間のつながりが薄いので、相談する相手がいない。問題を1人で抱えて孤立してしまう。
 - 研究や教育以外の仕事が多すぎる。
 - 上司が「夏休みを取りなさい」と言って取っているので、みんなも取れている。
 - 上司が「5時過ぎの会議は入れない」ようにしている。
 - 夏休みに向かって仕事をコントロールすることで長期休暇が取れている。
 - 相談したり、具体的に頼むことで意思の疎通がうまくいっている。
 - 当直手当が上がれば、仕事を増やしたい人は当直を引き受けてくれる。当直手当を上げてほしい。
 - 残業を無くすこと。長期休暇を取るより残業をなくす方が子育て期には有効だ。
 - 上司が積極的に休みを取ることでみんなが取りやすくなる。上司は積極的に取ってほしい。
 - 工学部の女子学生が増えているのに、トイレが各階に1か所しかない。トイレを増設してほしい。

■誰でもできる仕事をシェアするシステムが欲しい。仕事量が減れば家庭を持ちやすくなる。

(5) 相談を終えて

①子育て・介護について

- ・育児休暇を取得した教員は、育児休暇を肯定的にとらえている。
- ・上司や同僚の理解が得られる部局は、出産後も働き続けられている。
- ・これまで介護についての支援策や情報が少なかったので、今後は増やしていくことが必要だ。
- ・子育てや介護についての制度があっても取りにくい雰囲気がある。上司が積極的にワーク・ライフ・バランスを実践することが有効である。
- ・子育てが一段落した教員からの協力や理解が得られず、孤軍奮闘せざるを得ない状況が見えた。子育てや介護を大学全体で支えていく意識の醸成が必要だ。
- ・育児・介護休暇を取りたくても代替要員を確保できない現実がある。代替要員確保への支援が必要だ。

②その他

- ・教員間及び部局間のつながりが薄く、良い事例が広がらない現状が見えた。教員間及び部局間の情報交換を密にすることで、改善が図られる点が多い。
- ・巡回相談で話すことがこれまでの自分を振り返る機会となっている。また話をすることで物事が具体化していく。
- ・仕事を続けていく上でロールモデルの存在が大きい。また様々な事例を紹介することで、教職員の意識改革につながる。
- ・「巡回相談」について、子育てや介護等の相談以外は出来ないと感じていた教員がいた。案内等の記載内容について見直しが必要だ。
- ・孤立している教員が多いと感じた。巡回相談等で積極的に関わることも必要だ。
- ・指示が通らない学生への支援も必要だ。

④ | 女性研究者の裾野拡大

4-1 女子高校生対象セミナー

【女性研究者裾野拡大セミナー2014in農学部 PART 1

「女子高校生のためのランチョンセミナー～これからのキャリア形成を考える上で～」

日時：平成26年8月3日（日）12：30～13：40

会場：農学部3号館302教室

講師：農学部女性教員

参加人数：30名（女性27名、男性3名）

農学部オープンキャンパスに来場した女子高校生を対象に、ワークライフバランスについての講話や女性教員の研究内容等を紹介、本学教員や学生と一緒にランチをとりながら交流しました。



参加者からは、「ワークライフバランスの話をきいて、自分の人生について改めて見つめることができた。」「仕事と出産のかね合いが大切だと思った。」「農学部について、さらに興味がわいた。農学部で一緒に研究したい。」「農学部出身の女性がどんな活躍をしているのか多く紹介してほしい。」等の感想が寄せられた。

【理学部で何ができるの？～女子高校生のための山大理学部案内～】

日時：平成26年9月1日（月）13：30～15：30

会場：理学部1号館11番教室、13番教室、14番教室

参加人数：45人（山形県立山形西高等学校1年生）

理学部全学科（物理学科、生物学科、物質生命化学科、数理科学科、地球環境学科）の教員による教育・研究紹介に加え、女子学生・女性研究者の生の声を聞くことで、理学部への理解を深める事を目的として開催した。女子学生は先輩にあたる山形西高出身者を多数配置して、参加者が質問等をしやすい雰囲気を作った。そのため参加者からは先輩からの話が参考になったという声が多数あった。その他にも「理学部で研究をすると研究者にしかねれないと思っていたが、職業もいろいろつけるとわかり選択肢が広がった。」「研究をしてみたいという意欲が高まった。」「今回のセミナーのおかげで迷っていた進路をはっきり決めることができた。来年もぜひ行ってほしい。」という感想が寄せられた。

【理学部の研究室を覗いてみよう】

日時：平成26年12月13日（土）13：30～16：30

会場：理学部1号館12番・13番教室、他各学科研究室

講師：各学科担当教員

参加人数：71人（山形県立山形西高等学校生2年生）

物理学科「物性物理学の醍醐味を味わってみよう!!」

数理科学科「算数少女と会田安明」

生物学科「ゲノムDNAに刻まれた『情報』を調べてみよう」

物質生命化学科「化学合成を体験してみる」

地球環境学科「本物の宝石と偽物との見分け方—結晶光学の知識を利用した簡便な判定法と顕微レーザーマン分析装置を用いた分析法—」

理学部全学科の研究室訪問、実験体験等が行われ説明を行った学生には、参加者から研究内容や学生生活について多くの質問が寄せられ、先輩との交流の場にもなった。

学科ごとの体験は、オープンキャンパスより詳しいことが聞けると、大変好評だった。参加者からは、「今まで職業と直結する学部しか見ていなかったが、研究中心の学部もおもしろいと思った。」「学科を知ることができて選択肢が広がった。」「実際に研究室を見て、大学のイメージがつかめた。」「高校ではできない実験ができて良かった。」等の感想が寄せられた。



4-2 女性学生対象セミナー

【女性研究者裾野拡大セミナー2014in農学部 PART 2

「企業に聞いてみよう!~修士号を得て就職するメリットって!?!~」

日時：平成26年11月25日(火) 15:40~17:10

会場：農学部3号館202講義室

講師：大串万葉氏(キューピー株式会社人事採用チーム)

遠藤雅明氏(日東ベスト株式会社人事部人事課)

参加人数：40名(女性20名、男性20名)

企業等での技術専門職・研究職を目指す学生にとって、修士課程への進学は昨今の大きな流れとなっているが、本学農学部の大学院修士課程への進学率は低下傾向にあり、女性学生比率も概ね30%未満にとどまっている。そこで女性学生の修士課程への進学率の向上を目的として、食品メーカーの人事担当者から、修士取得後に就職するメリットや、社内の男女共同参画の状況について講話頂いた。

事前アンケートから、参加者の半数以上は、大学院進学に興味がある、または迷っていることがうかがえた。多くの学生が有意義なセミナーであったと評価する一方、もっと学部卒と修士卒の違いを詳細に聞きたかった、食品系企業以外でも同様のセミナーをやって欲しい、という要望が多数あった。また、女性学生対象でありながら多数の男性学生の参加があったことから、男女問わず関心のあるテーマであることがうかがえた。

女性研究者裾野拡大セミナー2014 in 農学部 Part2

企業に聞いてみよう!
~修士号を得て就職するメリットって!?!~

学部を卒業後さらに2年間研究を続け、修士論文を提出しそれが認められれば修士号を取得できます。学士と修士の学位の違いが、民間企業への就職や入社後の仕事内容(職種等)にどのように反映されているか? 修士号を得て就職するメリットって何だろう? 今週、企業で人事をご担当されている方からフレッシュなご意見を頂く貴重な機会を得ました。社内の男女共同参画推進の状況についてもお話を頂けます。

是非、安らげた質問をして、情報収集にお役立て下さい。事前に下記連絡先まで質問事項をメールで頂ければ、セミナーで回答いただくようになります。

日時：平成26年11月25日(火) 15:40~17:10
場所：山形大学農学部3号館202講義室

ご講師① キューピー株式会社
人事部採用チーム 大串 万葉 様

ご講師② 日東ベスト株式会社
総務人事部人事課 遠藤 雅明 様

あなたの新しい夢を育てます。

共催：山形大学農学部・山形大学男女共同参画推進室
本企画は、平成26年度山形大学女性研究者裾野拡大セミナー事業の支援を受けて実施しています。

お問い合わせ先
山形大学農学部総務課担当
TEL:0235-28-2805 FAX:0235-28-2812 E-MAIL: noyomu@jm.k.yamagata-u.ac.jp

4-3 基盤教育「キャリア形成とワーク・ライフ・バランス(ウーマン・オブ・ヤマガタ)」

(1) ねらい

21世紀日本の最重要課題となっている「男女共同参画社会」とはどのような社会で、どのような問題をどのように解決するのかについて、多方面で活躍する方々を招き、仕事と生活について経験に基づいた講義をもとに、男女共同参画社会について具体的に考える。また、男女が共に仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)が保てる働き方について考え、自らのキャリア・ビジョンを描く。

(2) 講師の一覧表

	月 日	講師名	プロフィール
1	5月1日	松田 友美	医学部看護学科基礎看護学講座准教授。専門は基礎看護学。褥瘡(床ずれ)の発生および予防に関する基礎的研究を行っている。
2	5月8日	佐藤 琴	基盤教育院講師。専門は日本美術史(近世絵画)、博物館学。江戸時代の景観図と、江戸時代の絵画に見られる旭日等を研究している。
3	5月15日	小倉 泰憲	理学部教授。専門は社会心理学。理学系大学院生を対象としたキャリア教育・支援・カウンセリングの実践と研究を行っている。
4	5月22日	柊 紫乃	大学院理工学研究科准教授。専門分野はものづくり管理会計、組織能力、地域連携等。「設計情報説」の応用展開でサービス業から製造業まで研究。
5	5月29日	小沢 互	農学部教授。専門は経営・経済農学。地域の自立をめざした地方都市や農村地域の地域計画のあり方や地域の課題を明らかにする調査方法等を研究。
6	6月5日	小泉有紀子	人文学部准教授。専門は英語学・言語学。人間は言語の構造や意味をどう理解するかについて、英語を中心に研究している。
7	6月12日	楠本 健二	地域教育文化学部講師。専門は環境生理学・食品科学等。大学生の生活習慣や健康意識、児童生徒とその保護者の食育や食生活に対する意識等を研究。
8	7月3日	齋藤 緑	NPO法人あらた代表理事。心身障がい者作業所や介護施設など福祉施設を次々と設置し、“障がい”という壁をなくす活動を行っている。

※前期教養セミナー：木曜日14：40～16：10に実施。

(3) 受講生の感想

- ・助産師を目指していますが、看護学科は大学教員が不足していると知り、大学卒業後に大学院で研究し、大学教員になることも1つの選択肢として考えてみてもよいのではないかと思った。
(1年女性)
- ・子育てをしながら仕事を行うには、やはり地域の協力が必要だと思った。両立しやすいサポート制度が海外にあれば、モデリングすべきだと思う。
(4年男性)
- ・ゲストの講義やテキストをもとにグループで考察をまとめ発表した。自分と同じ人を取り上げた人がいたが、違ったメッセージを読み取っていて、そういう考え方ができるのかと感じさせられた。
(1年女性)

⑤ | アウトリーチ活動

5-1 女性研究者研究活動支援事業シンポジウム2014

—女性研究者支援とダイバーシティ・マネジメント—

日時：平成26年11月26日（水）9：30～19：00

場所：一橋講堂

主催：文部科学省

協力：独立行政法人科学技術振興機構

内容：1 ポスター発表

2 分科会 山形大学Fグループ

3 文部科学省説明「女性研究者研究活動支援事業」

4 基調講演 橋本孝之氏（日本IBM株式会社会長）

5 特別講演 前田芳實氏（鹿児島大学学長）

6 分科会発表

1 ポスター発表（右ポスター）

2 分科会F「連携（地域・企業）・ネットワーク構築」

参加大学：22大学、座長 伊達紫教授（宮崎大学）

テーマ：①これまでに実施した連携・ネットワーク構築に関連する具体的な取り組み

②参考にした他機関の取り組み

③取り組み実施により得られた効果

④取り組み実施の際に課題となった点

内容：具体的な取組や成果

- ・女性研究者支援コンソーシアム秋田賞設立
- ・女性が代表となる共同研究に支援200万円×7件
- ・共同研究促進のため、成果報告書からシーズ集を作成し企業に配付
- ・コンソーシアム14機関の女性研究者と事務担当者17名でワーキング・グループを年3回開催
- ・セミナー等はeラーニングシステムで配信
- ・工学部の同窓会のネットワークを利用
- ・企業だけでなく地元の加工業や水産物の商品化も支援対象とした。

課題となった点

- ・公立大は国立大と違い設置自治体の意向が大きい。
- ・地方は零細企業が多く連携できる企業が少ない。
- ・私学は国立大と違って地域とのつながりが少ない。私学同士でも異なるので連携が難しい。
- ・基幹大学から支援員を連携機関に派遣する場合、派遣業法の資格が必要なため、自主経費で雇用した。
- ・特許の関係で連携したくない研究者や情報を公開したくない企業もある。
- ・優秀な女性研究者が異動するため、上位職が増えない。



5-2 他機関との連携

機 関 等	連 携 内 容
厚生労働省	女性の活躍推進宣言 輝く女性が、企業を輝かせる。 宣言します！ 宣言日2013年6月12日 ●職場風土の改善 ●女性の採用拡大 ●女性の職域拡大 ●女性の継続就業支援 ●女性管理職の増加 http://www.positiveaction.jp/declaration/add/search_detail/?id=214
山形労働局雇用均等室	平成26年度雇用均等行政推進員会議 日時：平成26年6月12日（木）13：30～15：30 場所：山形労働局大会議室
山形県子育て推進部	マザーズジョブサポート山形開局記念イベント 9月22日（月） 「働きたい女性のチャレンジ応援セミナー」の講師
山形県男女共同参画センター チェリア	・山形県男女共同参画センター企画運営委員会 6月21日（土） 3月12日（木） ・チェリアフェスティバル山形2014～いいね！誰もが主役 支えあう未来へ～ 日時：平成26年10月19日（日）10：00～16：00 パネル展示「山形大学ワークライフバランス実現への取組」
山形市男女共同参画課	山形市男女共同参画審議会（会長：木村コーディネーター） 第1回審議会 6月2日（月）15：00～16：30 第2回審議会 2月25日（水）13：30～15：30 男女共同参画に関する作品審査会 平成26年9月3日（水） 10：00～12：00
山形市男女共同参画センター ファーラ	女性学講座 9月12日（金）10：00～12：00 「自分磨きの再発見～もう一步踏み出すために～」の講師
長井市企画調整課	長井市男女共同参画推進審議会（会長：木村コーディネーター） 第1回審議会 7月29日（火）「第2次長井市男女共同参画基本計画」 第2回審議会 11月19日（水）「成果指標について」
天童市	天童市タウンミーティング 11月11日（火）19：00～21：00 「女性が活躍する場を～男女で共に考える」の講師
山形地方・家庭裁判所	平成26年度男女共同参画研修 7月1日（火）13：10～14：40 「男女共同参画社会について」の講師
大学コンソーシアムやまがた	山形大学男女共同参画国際シンポジウムの共催 日時：2月19日（木）13：30～16：30 場所：山形大学基盤教育3号館312教室 内容：テーマ「グローバル化時代の男女共同参画」 基調講演・特別後援・パネルディスカッション
NPO法人やまがた育児サークルランド	託児サポーター養成講座の共催 日時：講義 9月17日（水）～26日（金） 保育実習 9月27日（土）～28日（日）9：30～16：00 場所：基盤教育棟1号館124教室 および子育てランドあ～べ（実習）
山形銀行従業員組合	女性組合員向け講演 11月8日（土） 「仕事と育児・家庭の両立に向けて」の講師
市民団体 やまがた成年後見アドバイザーの会	研修会「超高齢社会における男女共同参画を考える」講師 日時：3月13日（金）13：30～15：30 場所：山形市男女共同参画センターファーラ会議室

6 | 広報活動

ホームページ、メールマガジン、ニュースレターの発行

「男女共同参画推進室」「小白川キャンパス保育所のびのび」のHPでの情報発信と共に、メールマガジンを隔月、ニュースレターを年2回発行した。



男女共同参画推進室【<http://www.yamagata-u.ac.jp/kenkyu/danjo/>】

小白川キャンパス保育所【<http://www.yamagata-u.ac.jp/kenkyu/danjo/nobinobi/index.html>】



ニュースレター 第15号 (平成26年7月25日発行)



ニュースレター 第16号 (平成27年3月30日発行)